

特集 地域医療

人と地域とつながる病院

ユネスコ無形文化遺産に登録された「綾子舞」や、江戸時代からの歴史がある「ぎおん柏崎まつり海の大花火大会」など、独自の文化が花開く柏崎市。出産・育児支援や教育に力を入れる柏崎市の今と未来について、トップの二人が語り合いました。

―柏崎市の医療の現状は？―

病院長 柏崎・刈羽地域は地方都市でありながら大手企業が多く、急激な人口減少は見られません。しかし診療所の先生方の高齢化もあり、当院は総合病院でありながら、かかりつけ医のような機能を担う必要があります。

柏崎市長 柏崎市の医療は、柏崎総合医療センターを中心に成り立っています。医師会や開業医の先生方にもお力添えをいただき、新型コロナウイルスの間を乗り切りました。また、相田院長のご専門は産科・婦人科です。出産・育児支援に力を入れる柏崎市にとって非常に心強い存在です。個人的には、子どもの頃は体が弱く、小学一年生の時に柏崎総合医療センターの前身である刈羽郡総合病院に入院し、非常に良くしていただいた記憶があります。



柏崎総合医療センター
病院長
アイダ ヒロシ
相田 浩

病院×地域 Topics

地域医療の再編・統合の流れがある中で「柏崎地域の医療を守る」という使命感を強く持つ。新型コロナ禍でも一度も外来制限をせずに医療を提供し続けた。医療人材確保にも注力。柏崎市にある新潟病院附属看護学校からの就職も増加している。



その刈羽郡総合病院は1939年開院。郡病院時代に入ると、柏崎総合医療センターは84年の歴史があります。柏崎市政は今年で83年。つまり市ができる前から、私たち市民の健康を支えてくれているのです。柏崎総合医療センターの存在を一言で表現するならば、まさに「信頼」ですね。

病院長 大変ありがたいお言葉です。県内では分娩施設の集約が進められていますが、当院の分娩件数は横ばい状態。とはいえ医療人材の確保は大きな課題です。櫻井市長は、県が募集した研修医のハーバード大学留学制度に真っ先に手を挙げてくださり、おかげさまで当院を希望する研修医は着実に増えています。



柏崎市長 研修期間中に、いかに柏崎の良さを知ってもらうか。例えば若い先生が柏崎で結婚してお子さんが生まれると、子どもの教育に関心が高く、子どもの教育に関心があると思います。安心して柏崎で修学してもらえようように、教育環境を整えています。お金をかければいい話ではありませんが、柏崎市は児童・生徒にかける教育費が県内ナンバーワンなんです。同じく柏崎市にある国立病院機構新潟病院の中島院長と、相田病院長の連携も素晴らしい。異なる組織の病院同士でありながら、本当に良い関係を築いていただいています。

病院長 柏崎市は隣の長岡市と距離があり、救急も日常診療も、地域の中である程度完結する必要があります。新潟病院や開業医の先生との連携は必須です。職員にも常々「自分たちはここで根を張り、柏崎の医療を維持していこう」と伝えていきます。

―今後の課題と展望、市民へのメッセージをお願いします―

おそらく、柏崎総合医療センターに一度もかかったことがない人はいないのではないのでしょうか。市民の皆さんには、信頼の歴史を紡いできた医療機関が柏崎にあることに、改めて期待と関心を寄せていただきたいと思います。市としてもさまざまな支援を通じて、市民の安心をより大きなものにしていきます。

病院長 医療の集約・再編の流れが大きくなっています。集約しすぎてお産できる場所が限られてしまうことを懸念しています。大きな再編の流れに引き込まれないよう、何としても地域医療を維持していく所存です。私たち医療人も人間です。あたたかい応援をいただければ100%以上の力を発揮できます。応援を糧に地域医療というインフラを担ってまいりますので、どうぞよろしくをお願いします。

柏崎市長
サクライ マサヒロ
櫻井 雅浩

地域×病院 Topics

柏崎地域の医療人材確保のため、研修医のハーバード大学留学制度、医療機器更新の資金援助に加え、職員用託児施設の設置もサポート。市内小中学校の教育にも力を入れ、若い医療人材が暮らしたくなる街づくりに取り組む。

※撮影時のみマスクを外しています。